

# NSG グループ

## 2025年3月期 第3四半期決算報告

(2024年4月1日～ 2024年12月31日)

日本板硝子株式会社  
2025年2月7日

**大河内 聡人**  
執行役常務 CFO

# 目次

1. 2025年3月期 第3四半期決算概要
2. 2025年3月期 業績予想について
3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況
4. 欧州の事業環境と施策
5. まとめ

CFOの大河内です。

本日はご多忙の中、弊社決算説明会にご参加頂き、誠に有難うございます。  
また常日頃から弊社事業にご理解とご支援を賜り、あらためて御礼申し上げます。

本日の説明内容ですが、3ページにお示した内容になります。  
始めに2025年3月期第3四半期決算概要および2025年3月期の業績予想について、  
その後、中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗  
および欧州の事業環境と施策についてご説明いたします。

# 1. 2025年3月期 第3四半期決算概要

# 連結損益計算書



欧州経済減速の影響が建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において継続。  
売上高は為替影響もあり前年同期比で増収だが、営業利益は減益

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	1,925	<b>2,075</b>	150	6,127	<b>6,300</b>	173
営業利益	61	<b>6</b>	△ 55	321	<b>108</b>	△ 213
営業利益率	3.2%	<b>0.3%</b>	△ 2.9pt	5.2%	<b>1.7%</b>	△ 3.5pt
個別開示項目 (純額)	6	△ 25	△ 31	9	△ 25	△ 35
個別開示項目後営業利益 (△損失)	67	△ 19	△ 86	330	<b>83</b>	△ 247
金融費用 (純額)	△ 64	△ 56	7	△ 204	△ 182	22
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37	-	△ 37
持分法による投資利益	15	<b>12</b>	△ 3	37	<b>37</b>	0
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	△ 1	-	1	10	-	△ 10
税引前利益 (△損失)	17	△ 64	△ 81	211	△ 62	△ 273
当期利益 (△損失)	36	△ 59	△ 95	141	△ 93	△ 234
純利益 (△損失)*	37	△ 62	△ 99	135	△ 101	△ 236
EBITDA	170	<b>130</b>	△ 40	650	<b>481</b>	△ 169

売上高は、為替影響もあり自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業において増加。営業利益は、建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業で欧州経済減速の影響が継続

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	△ 4	△ 176
自動車用	+ 131	△ 67
高機能	+ 65	+ 0
その他	△ 19	+ 30
<b>グループ全体</b>	<b>+ 173</b>	<b>△ 213</b>

欧米の金利低下に伴い前年同期比減少

前年はロシアJVの売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

5

まず、5ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が第3四半期 (3か月) の業績、  
右側が累計 (9か月) の業績になります。

当第3四半期 (10-12月期) の売上高は、  
前年同期比150億円の増収で2,075億円でした。  
為替影響もあり全事業において増収となりました。  
累計でも前年同期から173億円増収の6,300億円となりました。  
自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業は増収でしたが、  
建築用ガラス事業は減収でした。

営業利益は、当第3四半期は前年同期比55億円減益で6億円でした。  
累計では前年同期比213億円の減益で、108億円となりました。  
欧州の経済減速の影響を建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業を中心に大きく受けたことに加え、全事業で世界的に継続するインフレを反映した人件費等  
その他コストが増加したため減益となりました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は純額で25億円の費用でした。  
これには、2024年10月10日に公表したドイツ・グラートベック工場でのフロート窯の  
生産停止に伴う個別開示項目費用の計上が含まれています。

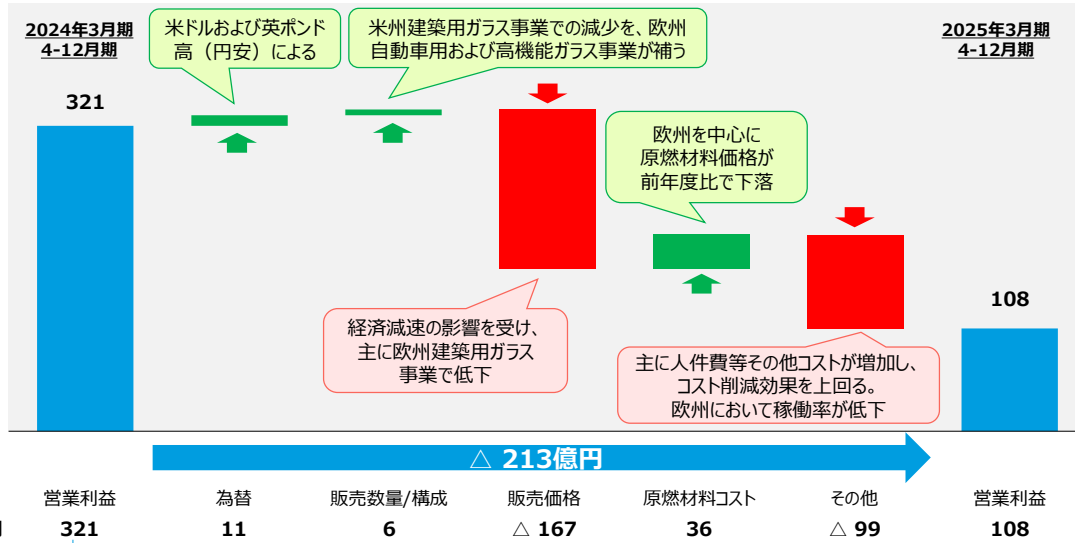
金融費用は、純額で182億円となり、前年の204億円から22億円改善しました。  
これは前年同期と比較し、欧州および米国の金利が低下したことによるものです。

持分法適用会社については、持分法による投資利益は前年と同水準の37億円でした。なお前年度は、第1四半期にロシアにおけるジョイント・ベンチャーを売却したことに伴い、一過性の利益として過去に計上した持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益37億円を計上し、また投資の一部に対する過去の減損損失の戻入益10億円を、持分法投資に関するその他の利益として計上しました。

法人所得税は通期の見積実効税率に基づき計算しており、31億円でした。利益が上がっている国では法人所得税費用が発生している一方で、利益が上がっていない国では法人所得税費用のマイナスが発生していないため、グループ全体としては税引前損失にも関わらず法人所得税費用が発生しています。これにより、当期損失は93億円で、純損失は101億円となりました。

# 営業利益差異分析 (4-12月期累計)

経済減速の影響を受け、欧州の建築用および自動車用ガラス事業で販売価格と稼働率が低下。人件費等の増加によりその他コスト増加も継続



2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

6ページは、4-12月期（9か月累計）の営業利益について前年度第3四半期累計の営業利益321億円と、当第3四半期累計の営業利益108億円との差異、213億円の差異分析です。

「為替」は、11億円のプラスでした。アルゼンチン・ペソ安（円高）による影響を米ドルや英ポンドをはじめとする通貨高（円安）が上回りました。

「販売数量/構成」は米州建築用ガラス事業で減少しましたが、欧州自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業で改善し6億円のプラスとなりました。

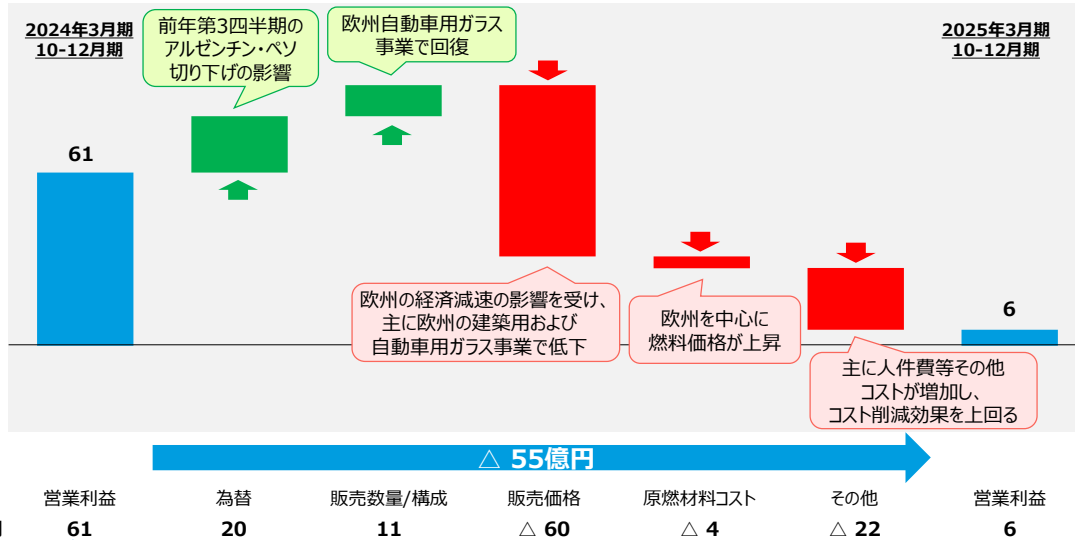
「販売価格」は、167億円のマイナスでした。主に経済減速の影響を受けた欧州の建築用ガラス事業で、供給が需要を上回る状況が続いたため販売価格が低下しました。

「原燃材料コスト」は、欧州を中心に原燃材料価格が低下し36億円のプラスでした。

「その他」は、99億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、主に人件費などのコストが上昇し、コスト削減効果を上回りました。また、経済減速の影響を受け、欧州の建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業において資産稼働率が低下しました。

# 営業利益差異分析 (10-12月期)

経済減速の影響を受け、欧州の建築用および自動車用ガラス事業で販売価格の低下が継続。  
 欧州建築用ガラスの稼働率低下は緩和したが、人件費等の増加によりその他コスト増加も継続



7ページは、第3四半期（10-12月期）の営業利益について前年度第3四半期の営業利益61億円と、当第3四半期の営業利益6億円との差異、55億円の差異分析です。

「為替」は、20億円のプラスでした。  
 これは前年度は第3四半期にアルゼンチン・ペソの切り下げの影響を受け営業利益が縮小したことによるものです。

「販売数量/構成」は欧州の自動車用ガラス事業で回復し、11億円のプラスとなりました。

「販売価格」は、60億円のマイナスでした。  
 主に欧州の建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業で経済減速の影響を受け、販売価格が低下したためです。

「原燃材料コスト」は、欧州を中心に燃料価格が上昇し4億円のマイナスでした。

「その他」は、22億円のマイナスとなりました。  
 世界的なインフレ傾向を受け、主に人件費などのコストが上昇し、コスト削減効果を上回る状態が継続しています。  
 一方で、欧州の建築用ガラスの資産稼働率の低下は、2024年6月からドイツ・バイアハマー工場のフロート窯1基の生産を停止したことに伴い、緩和しています。  
 これに加え2024年10月10日に公表した通り、2025年1月にドイツ・グラートベック工場のフロート窯1基での生産を停止しています。



# ガラス価格の推移

欧州経済減速に伴う需要減少を反映し、価格が低下



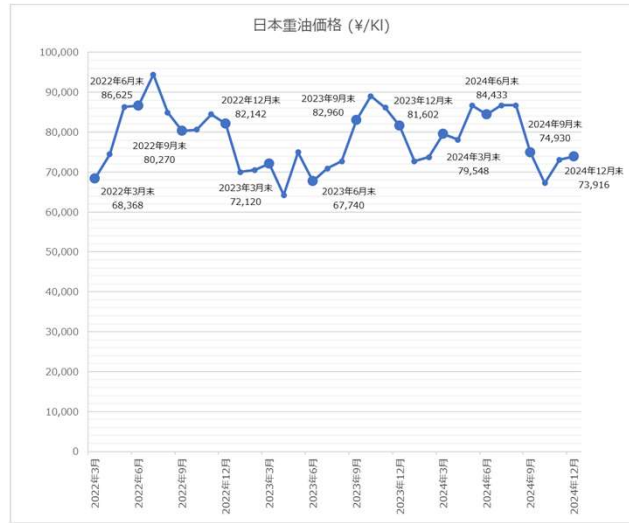
2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

8ページはドイツのガラス価格の推移を示しています。

欧州の経済減速に伴う需要の減少を反映し、価格が低下しています。  
販売価格は年間を通じて安定的に推移しましたが、  
前年から約20%低い価格水準となりました。

# エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：前年度以降安定的に推移しているが、緩やかに上昇傾向  
日本の重油価格：引き続き高値圏で推移



2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

続きまして、9ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、  
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は前年度から継続して安定的に推移しましたが、  
緩やかな上昇傾向にあります。  
日本における重油価格は引き続き高値圏で推移しました。

# 連結貸借対照表



自己資本比率は11.7%と前期末比で0.7pt低下。

有利子負債は営業減益、運転資本増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより前期末比で増加

(億円)	2024年 3月末	2024年 12月末	増減	
<b>資産合計</b>	<b>10,076</b>	<b>10,308</b>	<b>232</b>	主にアルゼンチンにおける超インフレ調整に伴う有形固定資産の増加
非流動資産	6,863	7,198	335	主に仕入債務及びその他の債務の減少
流動資産	3,213	3,110	△ 103	
<b>負債合計</b>	<b>8,537</b>	<b>8,752</b>	<b>215</b>	主に有利子負債の増加
流動負債	3,699	3,328	△ 371	アルゼンチンにおける超インフレの調整に伴う資産価値増加があったものの、純損失の計上により自己資本比率は11.7%に低下
非流動負債	4,839	5,424	586	
<b>資本合計</b>	<b>1,538</b>	<b>1,555</b>	<b>17</b>	主に営業減益、運転資本増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスによる増加
親会社の所有者に帰属する持分	1,243	1,202	△ 41	
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>12.3%</b>	<b>11.7%</b>	<b>△ 0.7pt</b>	
<b>有利子負債</b>	<b>5,065</b>	<b>5,654</b>	<b>589</b>	

10ページは連結貸借対照表になります。

2024年12月末時点の総資産は1兆308億円となり  
2024年3月末時点から232億円増加しています。

非流動資産は、主にアルゼンチンにおける超インフレ調整に伴い  
有形固定資産が増加した結果、335億円の増加となりました。

流動負債は主に仕入債務およびその他の債務の減少により  
371億円の減少となりました。

非流動負債は主に有利子負債が増加し、586億円の増加でした。

親会社の所有者に帰属する持分は、アルゼンチンにおける超インフレの調整に伴う  
資産価値の増加があったものの、純損失計上の影響により41億円減少し、  
1,202億円でした。

この結果、自己資本比率は前期末比で0.7ポイント低下し11.7%となりました。

有利子負債は前期末比で589億円増加し、5,654億円となりました。  
これは主に、営業減益および運転資本増加に伴う  
フリー・キャッシュ・フローのマイナスによるものです。

# 連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは、営業減益および運転資本増加のため前年同期比で減少。  
引き続きフリー・キャッシュ・フローの改善により有利子負債の削減を目指す

(億円)	10-12月期 (3か月)			4-12月期累計 (9か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	△ 30	△ 188	192	△ 68	△ 260
(うち、運転資本の増減)	72	△ 28	△ 100	△ 241	△ 194	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 96	△ 148	△ 52	△ 316	△ 396	△ 81
(うち、有形固定資産の取得)	△ 119	△ 143	△ 24	△ 397	△ 378	19
フリー・キャッシュ・フロー	62	△ 178	△ 240	△ 124	△ 464	△ 341
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 130	188	318	△ 129	499	629
現金及び現金同等物の増減	△ 68	10	78	△ 253	35	288
現金及び現金同等物 期末残高				462	491	29

営業減益および運転資本増加により、前年同期比で減少

戦略投資増加の一方で、全体の投資額を抑制

前年同期比で減少

11ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第3四半期（10-12月期）の3か月間では、営業減益および運転資本増加により前年同期から188億円減少し、30億円のマイナスでした。累計9か月間でも、前年同期より260億円減少し、68億円のマイナスでした。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計では前年同期比マイナスが81億円増加し396億円のマイナスでした。有形固定資産の取得については、戦略投資が増加する一方で通常投資を抑制したため、全体の投資額は前年同期並みでした。

以上によりフリー・キャッシュ・フローは、当第3四半期では178億円のマイナスで、累計でも464億円のマイナスとなりました。

引き続き、営業利益の改善と運転資本の削減に努め、フリー・キャッシュ・フローの増加と有利子負債の削減に努めます。

# セグメント情報



(億円)	2023年3月期 4-12月期			2024年3月期 4-12月期			2025年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>2,757</b>	<b>49%</b>	<b>262</b>	<b>2,745</b>	<b>45%</b>	<b>262</b>	<b>2,741</b>	<b>44%</b>	<b>86</b>	△ 4	△ 176
欧州	1,180	21%		1,071	17%		944	15%		△ 128	
アジア	748	13%		827	13%		908	14%		81	
米州	830	15%		847	14%		890	14%		43	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>2,584</b>	<b>46%</b>	△ 11	<b>3,059</b>	<b>50%</b>	<b>93</b>	<b>3,189</b>	<b>51%</b>	<b>26</b>	<b>131</b>	△ 67
欧州	1,076	19%		1,272	21%		1,297	21%		25	
アジア	494	9%		595	10%		613	10%		18	
米州	1,015	18%		1,192	19%		1,279	20%		87	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>298</b>	<b>5%</b>	<b>72</b>	<b>296</b>	<b>5%</b>	<b>57</b>	<b>362</b>	<b>6%</b>	<b>57</b>	<b>65</b>	<b>0</b>
欧州	68	1%		76	1%		74	1%		△ 2	
アジア	218	4%		207	3%		275	4%		68	
米州	12	0%		14	0%		12	0%		△ 1	
<b>その他</b>	<b>23</b>	<b>0%</b>	△ 82	<b>27</b>	<b>0%</b>	△ 91	<b>7</b>	<b>0%</b>	△ 62	△ 19	<b>30</b>
<b>合計</b>	<b>5,662</b>	<b>100%</b>	<b>242</b>	<b>6,127</b>	<b>100%</b>	<b>321</b>	<b>6,300</b>	<b>100%</b>	<b>108</b>	<b>173</b>	△ 213

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

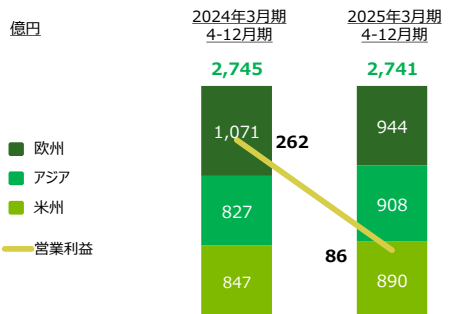
12

12ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の累計の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

# 建築用ガラス事業 (累計：減収・減益 10-12月期：増収・減益)



欧州を中心に販売数量減少と販売価格低下により、前年同期比で減収減益。  
太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調に推移、米国で生産能力増強が順調に進捗



(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	816	942	126	2,745	2,741	△ 4
欧州	336	290	△ 47	1,071	944	△ 128
アジア	279	334	55	827	908	81
米州	201	318	118	847	890	43
営業利益	44	20	△ 24	262	86	△ 176

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

## 欧州 (累計：減収・減益 10-12月期：減収・減益)

- 経済活動の減速に伴い販売価格が大きく低下
- 市場環境の悪化による影響は投入コストの減少により一部軽減
- ドイツのフロート窯の生産停止により固定費削減 (2024年6月に1基、2025年1月に1基停止)

## アジア (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 日本では販売数量が減少したが、販売価格は安定して推移
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

## 米州 (累計：増収・減益 10-12月期：増収・増益)

- 北米は商業用不動産市場の需要軟化が継続し、販売価格が低下、販売数量も減少
- 南米は需要減少に伴い販売数量減少だが、販売価格は堅調
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。米国の既存フロートラインの転換工事が完了し、1月に火入れ

13

13ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、引き続き欧州を中心に販売数量が減少し、人件費が上昇する一方で販売価格も下落したため、累計では減収減益となりましたが、第3四半期は為替影響もあり増収減益でした。その中でも太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移し、米国での生産能力増強は順調に進捗しています。

欧州は、減収減益でした。

中長期的には新築のみならずリフォームによる需要が見込まれるものの、経済活動の減速が続いたため、販売価格が大きく低下しました。市場環境が悪化したことに伴い資産稼働率も低下しましたが、原燃材料等の投入コストが前年同期比で減少したため一部軽減しました。このような厳しい事業環境に対し、2024年6月よりドイツのバイアハマー工場にあるフロート窯のうちの1基の生産を停止し、これに加え2025年1月より、ドイツのグラートベック工場稼働するフロート窯のうちの1基についても生産を停止しました。これらにより、低下した資産稼働率の改善による固定費削減と、欧州における建築ガラス市場の需給状況の改善、ひいては販売価格の上昇を目指します。

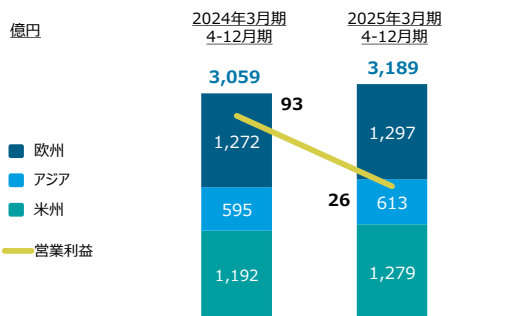
アジアは、増収増益でした。

日本では、販売数量は減少しましたが、販売価格は安定して推移しました。太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

米州は、累計では増収減益、当第3四半期では増収増益となりました。  
北米は、商業用不動産市場の需要軟化が継続したため販売価格が低下し、  
販売数量も減少しました。  
南米は、アルゼンチンでの需要減少に伴い販売数量が減少しましたが、  
販売価格は堅調に推移しました。  
太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調で、  
米国オハイオ州ロスフォード工場の既存フロートラインの転換工事が完了し、  
1月に火入れを行いました。  
第4四半期中に本格生産を開始する予定です。

# 自動車用ガラス事業 (累計：増収・減益 10-12月期：増収・減益) NSG GROUP

売上高は、販売数量回復が遅れているものの円安による影響もあり増加。  
営業利益は、人件費等その他コスト上昇および資産稼働率低下の影響を受け減少



欧州 (累計：増収・減益 10-12月期：減収・減益)  
アジア (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)  
米州 (累計：増収・減益 10-12月期：増収・減益)

- 販売数量は、欧州での自動車生産減少、アジアと北米の一部取引先での生産停止の影響を受け、回復が遅延
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格交渉が欧州以外ではさらに進捗。一方で、人件費等その他コストを十分に吸収できず、営業利益が減少
- 北米では生産効率の一時低下の影響が継続するが、さらに改善
- ドイツ・ヴィッテン工場生産体制見直しを決定
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2024年3月期	2025年3月期	差異	2024年3月期	2025年3月期	差異
売上高	1,007	1,016	9	3,059	3,189	131
欧州	434	405	△ 29	1,272	1,297	25
アジア	212	214	2	595	613	18
米州	362	397	36	1,192	1,279	87
営業利益	30	△ 9	△ 39	93	26	△ 67

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

14

14ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、増収減益でした。

販売数量の回復が遅れているものの、円安の影響もあり増収となりました。

減益は主に人件費等その他コストが上昇したこと、欧州を中心に資産稼働率が低下したためです。

販売数量は欧州での自動車生産の減少やアジアと北米の一部取引先で生産停止があり、その影響を受けたため回復が従来の想定より遅延しています。

原燃材料および人件費等その他コスト上昇の影響を緩和するための価格交渉は、欧州を除いた地域においてさらに進捗しました。

これに伴いアジアでは増益となったものの、欧州、米州では人件費等その他コストの上昇を十分に吸収できなかったため、減益となりました。

北米では第1四半期においていくつかの工場で一時的に生産効率が低下し、その影響が継続しているもののさらに改善が進んでいます。

また、2025年1月24日にお知らせした通り、欧州地域の市場状況等を勘案しドイツ・ヴィッテン工場における生産体制の見直しを決定しました。これにより、生産体制の適正化による収益性の改善を目指します。

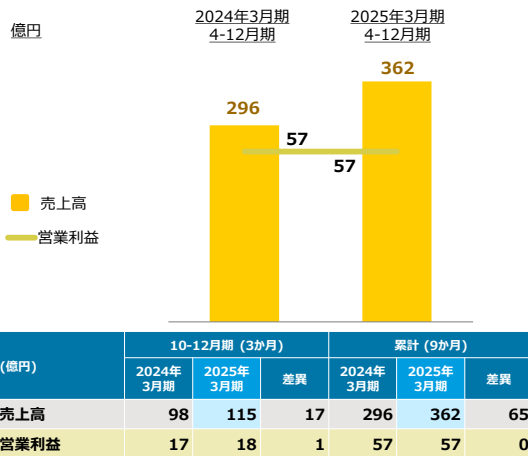
中長期的には自動車生産台数の緩やかな改善に伴う需要回復を見込んでおり、引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。



# 高機能ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)



売上高は多くの事業で需要の回復が継続し増加。  
営業利益はその他コスト増加により前年同期と同水準



- ファインガラスでは、一部製品で需要回復に伴い販売数量と価格水準が改善
- プリンター用レンズは、需要が堅調に推移
- グラスコードは補修用市場での強い需要を背景に販売数量が増加
- メタシャイン® は化粧品向けで増加

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

15

続きまして15ページです。

高機能ガラス事業は、多くの事業で需要の回復が継続し売上高が増加しました。  
営業利益はその他コストが上昇したため、前年同期と同水準でした。

ファインガラスは、一部製品で需要が回復したことに伴い  
販売数量と価格水準が改善しました。

プリンター用レンズは、プリンターメーカーでの生産数量増加に伴い  
需要が堅調に推移し、販売数量が回復しました。

グラスコードは、エンジン用タイミングベルトの補修用市場での  
強い需要を背景に販売数量が増加しました。

メタシャイン®は化粧品向けで売上高が増加しました。

## 2. 2025年3月期 業績予想について

## 2025年3月期 業績予想



欧州経済減速の影響および施策による個別開示項目費用計上を踏まえ、利益予想を下方修正。  
グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施

(億円)	2025年3月期 通期予想 (前回)	2025年3月期 通期予想 (今回)	増減	2024年3月期 通期実績 (参考)
売上高	8,500	8,500	-	8,325
営業利益	260	160	△ 100	359
個別開示項目 (純額)	20	△ 70	△ 90	1
個別開示項目後営業利益	280	90	△ 190	360
金融費用 (純額)	△ 270	△ 250	20	△ 282
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37
持分法による投資利益	50	50	-	51
持分法投資に関する その他の利益	-	-	-	10
税引前利益 (△損失)	60	△ 110	△ 170	176
当期利益 (△損失)	10	△ 160	△ 170	109
純利益 (△損失)*	0	△ 170	△ 170	106

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

17

続いて2025年3月期の業績予想です。

表の左側から、2025年3月期の前回通期予想および今回予想とその増減、そして前年2024年3月期通期実績と並んでおります。

今般、通期における営業利益、税引前利益、当期利益および純利益予想をそれぞれ下方修正いたしました。

これは、減速した欧州経済の回復が想定よりも遅れ、第3四半期（累計）の業績が想定を下回ったことに加え、第4四半期においても大きな改善は期待できないと見込まれるためです。

また建築用ガラス事業についてドイツのフロート窯2基の生産停止を決定をしたことを既に公表していますが、これに続き2025年1月24日に公表した通り自動車用ガラス事業についてドイツの工場1拠点の生産体制の見直しを決定し、個別開示項目費用を計上します。

なお当社は、現下の厳しい経営環境を勘案し、早期の業績回復に一丸となって取り組む経営姿勢を明確にするため、代表執行役をはじめとする執行役等の報酬の自主返上を行うことを本日公表いたしました。

当社は、これらの欧州における施策や代表執行役等の報酬の自主返上も含め、その他不要不急の人員増加、旅費・出張費、賃上げの物価連動部分の抑制等、間接部門も含めたグループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施し、2026年3月期の黒字回復に向けて全社一丸となって取り組みます。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

## 2025年3月期 業績予想の前提

グループ	<p>欧州の経済減速の影響が継続、施策に伴う個別開示項目費用計上もあり、利益予想を下方修正。 グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要通貨について2024年3月期より円安を見込む</li> <li>エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、インフレによる人件費等その他コスト増加は継続</li> <li>コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続</li> </ul>
建築用ガラス	<p>欧州の経済減速は当面続くが、フロート窯の生産停止により対応。太陽電池パネル用ガラスで好調が継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：景気減速による販売数量減少・販売価格低下と、コスト増加の影響が続く</li> <li>アジア：日本では販売価格が安定して推移</li> <li>北米：域内の需要軟化が継続し、販売数量が減少。米国の経済動向に注視</li> <li>南米：アルゼンチンの需要軟化が継続</li> <li>太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が継続、米国で新設備が稼働開始</li> </ul>
自動車用ガラス	<p>欧州の自動車生産減少に伴う需要減少に対し、生産体制見直し等の施策を実施。 人件費等コスト増加の影響が続くが、販売価格改善交渉を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車需要を背景に販売数量の回復は続くが、ペースは鈍化</li> <li>自動車メーカーと、投入コスト増加の影響を軽減するための価格改善交渉を継続</li> <li>引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により収益性改善を目指す</li> </ul>
高機能ガラス	<p>多くの市場が回復し堅調に推移。コスト増加の影響を販売数量および販売価格の改善で吸収</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファインガラスは、IT市場が回復</li> <li>プリンター用レンズは、プリンターメーカーの生産数量増加に伴い需要回復</li> <li>グラスコードは、補修用で販売数量が増加</li> </ul>

2025年2月7日

2025年3月期 第3四半期決算報告

18

スライド18に移ります。

先ほどご説明しました通り、欧州経済減速の影響が継続していることおよびそれに対する施策に伴う個別開示項目費用の計上を踏まえ、営業利益、税引前利益、当期利益および純利益予想を下方修正しています。

グループ全体の前提としては、主要通貨は、昨今の為替情勢を踏まえ、2024年3月期と比較し円安を見込んでいます。エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ傾向の影響を受け人件費等その他のコストの増加は継続すると見えています。引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、欧州においては、経済減速による販売数量の減少と販売価格低下および人件費等その他のコスト増加の影響を引き続き受ける見込みであり、フロート窯の生産停止も含めたコスト削減施策を進めていきます。アジアでは、日本での販売価格が安定して推移します。北米では、域内市場の需要は軟化が続き、販売数量も減少する見込みです。今後の米国の経済動向に引き続き注視が必要です。南米ではアルゼンチンでの需要は引き続き軟化が見込まれます。一方で、太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要が継続します。米国オハイオ州ロスフォードの新設備も、第4四半期中の稼働開始を予定しています。

自動車用ガラス事業では、  
自動車需要を背景に販売数量の回復が続きますが、ペースは鈍化すると見えています。  
欧州の自動車生産減少に伴う目下の需要減少に対しては、生産体制の適正化等の  
施策を実施していく予定です。  
引き続き人件費等コスト増加の影響が予想されますが、  
販売価格の改善交渉を継続いたします。  
引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、  
さらなる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、  
事業を行う多くの市場は堅調に推移する見込みです。  
販売数量および販売価格の改善によりコスト増加の影響を吸収していくことを目指します。

前スライドで言及した通り、グループ全体でのさらなるコスト削減等、  
早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施し、  
通期業績予想の達成および2026年3月期の黒字回復に注力してまいります。

### 3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における 財務目標の進捗状況

# 「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を大きく受ける。

引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期 (4-12月期) 実績
収益性 (P/L)	営業利益	640億円		108億円：主に欧州経済減速の影響
	営業利益率 (ROS)	7%	10%以上	1.7%：第2四半期から0.7pt低下
▼				
キャッシュ創出 (C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		△464億円：営業減益および運転資本増加によりフリー・キャッシュ・フローはマイナス
▼				
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,654億円：フリー・キャッシュ・フローのマイナスによる増加
	自己資本比率	15%		11.7%：前期末から0.7pt低下

2025年2月7日

2025年3月期 第3四半期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料

[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation\\_j02.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf)

20

20ページでは中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の主な進捗についてご説明します。

2024年5月に発表した、2025年3月期から2030年3月期までの6年間を対象とする中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」においては、収益性を向上させキャッシュ創出力を高め財務基盤を改善することに徹底して注力することを目標にしています。そのため、収益性 (P/L)、キャッシュ創出 (C/F)、財務基盤の安定化 (B/S) について2027年3月期において達成すべき財務目標を5つ掲げております。

まず、営業利益については、108億円と主に欧州における経済減速の影響を引き続き大きく受けました。営業利益率は前四半期の2.4%から0.7ポイント低下し、1.7%となりました。

フリー・キャッシュ・フローについては、累計で464億円のマイナスでした。これは営業減益および運転資本増加によるものです。

有利子負債は5,654億円と前期末の5,065億円から589億円増加しました。これはフリー・キャッシュ・フローのマイナスによるものです。自己資本比率は11.7%で、純損失計上の影響により前期末から0.7ポイント低下しています。

今後も引き続き、有利子負債の削減および自己資本比率の改善に向けて、収益性を改善し、キャッシュ創出力を強化していきます。

## 4. 欧州の事業環境と施策



# 欧州の事業環境と施策

欧州では、**建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業ともに付加価値製品の需要は中長期的に拡大。コスト削減、付加価値製品の強化による脱コモディティ製品化により対応**

## 1. 欧州の事業環境

- 直近ではインフレ拡大、高金利の継続に伴う経済減速の影響を大きく受けて需要が減少
- 金利の低下が始まっており、それに伴う段階的な経済回復を期待
- 建築用ガラス事業では、エネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大
- 自動車用ガラス事業では、自動車生産台数の緩やかな改善に伴い需要が回復

## 2. 施策～「2030 Vision : Shift the Phase」の「Business Development」に基づく脱コモディティ製品化

- 建築用ガラス事業では、アップストリーム（板硝子生産工程）の削減およびダウンストリーム（板硝子加工工程）の脱コモディティ製品強化
- 自動車用ガラス事業では、生産体制の見直し等によるフットプリントのさらなる適正化やオペレーションコストの削減による徹底的な収益性改善

これまでご説明してきました通り、2025年3月期の累計実績および通期の業績予想においては、経済減速により欧州の建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業が大きな影響を受けています。

そこでこの22ページからは、欧州の事業環境と施策についてご説明します。

まず、事業環境につきましては  
直近ではインフレの拡大や、金利が上昇し、  
2024年3月期下期以降それが継続したことに伴って経済が減速し、  
ガラスの需要も減少したため販売価格が大きく低下しています。  
しかし、今年度に入って以降、インフレ率が落ち着きを見せるとともに金利の低下が  
始まりそれに伴って徐々に経済が回復していくことが期待されます。  
また、中長期的には環境意識の高い欧州では窓ガラスにより室温をコントロールし、  
温室効果ガス排出量を削減すべくエネルギー効率を改善するための  
リノベーションの需要が拡大していくと見込んでいます。  
自動車用ガラス事業においては、自動車生産台数は緩やかに改善していくと見ており、  
それに伴い需要も回復することが期待されます。

このような現在直面している厳しい事業環境および中長期的に期待される需要拡大に  
対しては、今年度から開始した中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の  
「Business Development」に基づいて、脱コモディティ製品化を進めてまいります。  
まず建築用ガラス事業においては、板ガラス生産工程であるアップストリームでの  
生産量削減を進め、板ガラス加工工程であるダウンストリームでは  
非コモディティ製品の強化を進めます。

自動車用ガラス事業では、先般1月24日にお知らせしましたドイツ・ヴィッテン工場での生産体制見直し等を含め、フットプリントのさらなる適正化やオペレーションコストの削減による徹底的な収益性改善を目指します。

次のスライドでは具体的な施策のご説明をいたします。

# 欧州の事業環境と施策

## 3. 主な施策

### (1) 建築用ガラス事業でのアップストリーム削減および自動車用ガラス事業でのコスト削減

事業	国	概要	公表日	実施時期	コスト削減効果		
					年間	2025年3月期	2026年3月期
建築用ガラス	英国	フロート板ガラスと型板ガラスの溶融窯を共用化	2023年4月21日	2025年4月	約4億円	-	約3億円
	ドイツ	バイアハマー工場のフロート窯1基の生産停止	2024年3月19日	2024年6月	約20億円	約15億円	約20億円
	ドイツ	グレートベック工場のフロート窯1基の生産停止	2024年10月10日	2025年1月	約30億円	約5億円	約30億円
自動車用ガラス	ドイツ	ヴィッテン工場の生産体制見直し	2025年1月24日	2025年6月～8月	約11億円	-	約5億円

### (2) 建築用ガラス事業でのダウンストリームの脱コモディティ製品化の進捗状況

概要	国	実施時期	進捗状況
複層ガラス、トリプル複層ガラス	主にポーランド	実施中	年率5%増加を目指して計画通り進捗中
先進的なコーティング技術を活用した製品低放射 (Low-E) ガラス等	英国、ポーランド	実施中	年率4%増加を目指して計画通り進捗中
大型ラミネート合わせガラス	ドイツ	2025年12月	計画通り進捗中

23ページをご覧ください。

ここではコスト削減および脱コモディティ化に関する具体的な施策についてご説明します。

まず、コスト削減施策についてです。

建築用ガラス事業での主な施策としてはすでにお知らせしているもので3件、自動車用ガラス事業においては1件ございます。

建築用ガラス事業の1件目は、英国のフロート板ガラスと型板ガラスの溶融窯の共有化です。

本件は2023年4月21日にお知らせしました通り、板ガラスの生産を従来の2つの窯から1つの窯に集約することにより生産効率を高め、コスト削減とともに二酸化炭素排出量の削減を目指すものです。

完了時期は2025年4月の予定で、年間約4億円、

2026年3月期においては約3億円のコスト削減効果を見込んでいます。

2件目および3件目はドイツにおけるフロート窯の生産停止です。

これらの施策は、直近の欧州地域における建築ガラス市場の弱い需給状況を勘案したもので、供給量の適正化を行うことで固定費の削減と需給バランスの改善による販売価格の上昇を目指します。

2件目は2024年3月19日にお知らせしました通り、2026年3月期の定期修繕に先立ち、ドイツ・バイアハマー工場のフロート窯1基を2024年6月から生産停止しました。

これにより年間約20億円、2026年3月期においても同額のコスト削減効果が見込まれます。

3件目は2024年10月10日に公表しました、ドイツ・グレートベック工場のフロート窯1基の生産停止で、こちらは2025年1月に生産を停止しました。

2026年3月期においても年間のコスト削減額と同額の約30億円を見込んでいます。

続いて自動車用ガラス事業においては、2025年1月24日に発表しました通りドイツ・ヴィッテン工場においてガラス生産の体制を見直し、生産体制の適正化を進めています。2025年6月から8月にかけて実施の予定で、これによるコスト削減効果は年間で約11億円、2026年3月期においては約5億円と見込んでいます。

その他不要不急の人員増加、旅費・出張費、賃上げの物価連動部分の抑制等、間接部門も含めたグループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を実施し、2026年3月期の黒字回復に向けて全社一丸となって取り組みます。

続きまして脱コモディティ製品化に関する取り組みのご説明です。当社では中長期的な拡大が見込まれる需要に対応するための、脱コモディティ製品化の施策を建築用ガラス事業のダウンストリーム工程で実施しております。その中でも特に第2四半期に説明した3つの施策について、進捗状況をご説明します。まず1つ目は複層ガラス・トリプル複層ガラスについてです。環境意識の高い欧州では複層ガラスなどの窓ガラスにより室温をコントロールし、エネルギー効率を改善するためのリノベーションの需要が拡大していくと見込んでいます。それらの需要を取り込むべく主にポーランドで投資を実施中であり、年率5%の拡大を目指し計画通り進捗しています。

2つ目の施策は、先進的なコーティング技術を生かした製品の拡販のための投資です。低放射ガラスなどのコーティングを施したガラスの生産能力増強を英国とポーランドで実施しており、計画通りに進捗しています。年率4%の拡大を目標としています。

3つ目は、ドイツで大型ラミネート合わせガラスを生産するものであり、2025年12月からの稼働開始を目指し順調に進捗しています。

以上のコスト削減施策や、中長期での脱コモディティ製品化の推進により、直近では厳しい事業環境にある欧州の収益性を改善し、中期経営計画の目標達成を目指します。

## 5. まとめ

# まとめ

## 1. 2025年3月期 第3四半期決算概要

- ・ 欧州経済減速の影響が建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において継続。売上高は為替影響もあり前年同期で増収だが、営業利益は減益
- ・ 欧州の建築用および自動車用ガラス事業で販売価格と稼働率が低下。人件費等の増加によりその他コスト増加も継続
- ・ 自己資本比率は11.7%と前期末比で0.7pt低下。  
有利子負債は営業減益、運転資本増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより前期末比で増加

## 2. 2025年3月期 業績予想

- ・ 欧州経済減速の影響およびこれに対する施策による個別開示項目費用計上を踏まえ、利益予想を下方修正
- ・ 早期の業績回復に向け、建築用ガラス事業においてドイツのフロート窯2基の生産停止等、自動車用ガラス事業においてドイツ・ヴィッテン工場の生産体制見直しの他、代表執行役等の報酬の自主返上を実施
- ・ グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を推進し、通期業績予想の達成および2026年3月期の黒字回復に注力

## 3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況

- ・ 欧州経済減速の影響を大きく受ける。  
引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

## 4. 欧州の事業環境と施策

- ・ 欧州では、建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業ともに付加価値製品の需要は中長期的に拡大。  
コスト削減、付加価値製品の強化による脱コモディティ製品化により対応

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料

- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費



# 連結損益計算書 四半期別推移

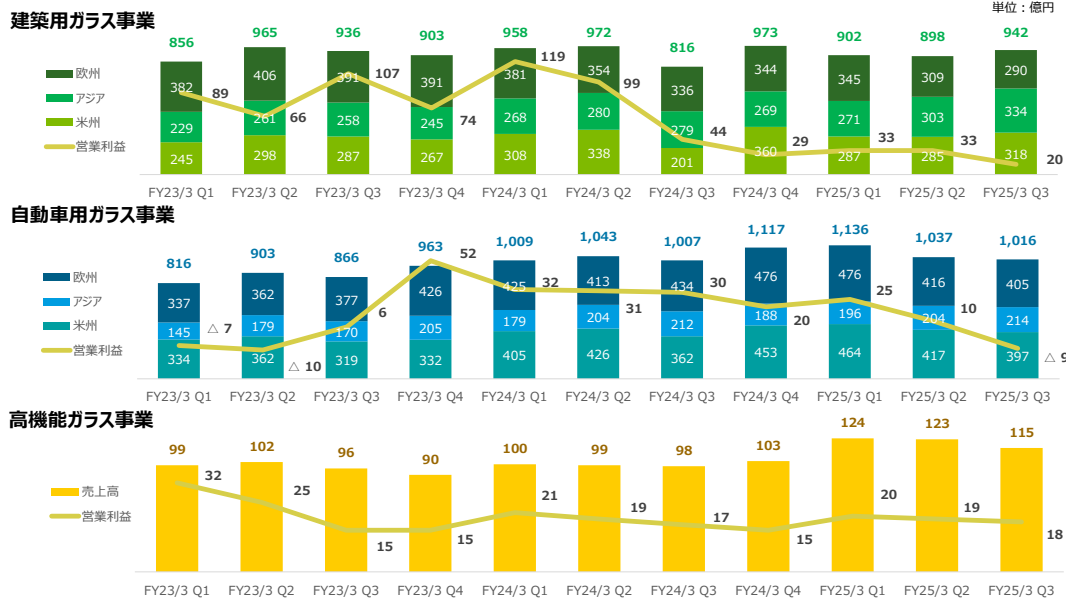


(億円)	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
売上高	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080	2,122	1,925	2,198	2,164	2,060	2,075
営業利益	83	62	97	107	146	115	61	38	48	55	6
営業利益率	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%	5.4%	3.2%	1.7%	2.2%	2.7%	0.3%
個別開示項目 (その他)	23	△ 473	10	△ 12	△ 8	11	6	△ 8	2	△ 2	△ 25
個別開示項目後営業利益 (△ 損失)	106	△ 411	107	94	138	125	67	29	49	53	△ 19
金融費用 (純額)	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64	△ 77	△ 64	△ 78	△ 60	△ 66	△ 56
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益 (△ 損失)	-	-	-	-	37	-	-	-	-	-	-
持分法による投資利益	22	10	21	20	10	12	15	14	11	14	12
持分法投資に関するその他の利益 (△ 損失)	△ 12	5	△ 4	△ 4	11	△ 0	△ 1	△ 0	-	-	-
税引前利益 (△ 損失)	88	△ 434	77	49	133	61	17	△ 35	0	1	△ 64
当期利益 (△ 損失)	33	△ 403	22	38	75	30	36	△ 32	27	△ 61	△ 59
純利益 (△ 損失)*	24	△ 412	17	34	70	27	37	△ 29	24	△ 63	△ 62
EBITDA	180	161	202	207	253	226	170	168	175	175	130

2025年2月7日 | 2025年3月期 第3四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△ 損失) 28

# 事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移



# セグメント情報



(億円)	2023年3月期					2024年3月期					2025年3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計
売上高: 建築用ガラス	856	965	936	903	3,659	958	972	816	973	3,718	902	898	942	2,741
欧州	382	406	391	391	1,571	381	354	336	344	1,415	345	309	290	944
アジア	229	261	258	245	992	268	280	279	269	1,096	271	303	334	908
米州	245	298	287	267	1,096	308	338	201	360	1,206	287	285	318	890
営業利益	89	66	107	74	336	119	99	44	29	291	33	33	20	86
売上高: 自動車用ガラス	816	903	866	963	3,547	1,009	1,043	1,007	1,117	4,176	1,136	1,037	1,016	3,189
欧州	337	362	377	426	1,502	425	413	434	476	1,747	476	416	405	1,297
アジア	145	179	170	205	699	179	204	212	188	783	196	204	214	613
米州	334	362	319	332	1,347	405	426	362	453	1,645	464	417	397	1,279
営業利益	△ 7	△ 10	6	52	41	32	31	30	20	113	25	10	△ 9	26
売上高: 高性能ガラス	99	102	96	90	388	100	99	98	103	399	124	123	115	362
欧州	21	25	22	27	95	25	26	26	30	106	28	23	23	74
アジア	75	73	70	58	276	71	69	67	69	275	91	95	89	275
米州	4	5	4	4	16	4	5	5	4	18	5	5	3	12
営業利益	32	25	15	15	87	21	19	17	15	71	20	19	18	57
売上高: その他	8	7	9	18	41	13	8	5	6	33	2	2	3	7
営業利益	△ 31	△ 19	△ 31	△ 34	△ 115	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31	△ 7	△ 23	△ 62
売上高: 合計	1,779	1,977	1,906	1,973	7,635	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164	2,060	2,075	6,300
営業利益	83	62	97	107	348	146	115	61	38	359	48	55	6	108

## 地域別売上高および営業利益

(億円)	2024年3月期 4-12月期			2025年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	2,419	39%	39	2,315	37%	△ 189	△ 104	△ 228
アジア	1,629	27%	231	1,796	29%	271	167	40
米州	2,053	34%	142	2,181	35%	88	128	△ 54
その他 *	27	0%	△ 91	7	0%	△ 62	△ 19	30
合計	6,127	100%	321	6,300	100%	108	173	△ 213

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

## 個別開示項目

(億円)	2024年3月期 4-12月期	2025年3月期 4-12月期
非流動資産の売却による収益	-	3
引当金の戻入益	-	2
非流動資産の減損損失の戻入益	2	0
係争案件の解決に係る収益(△費用)純額	9	△1
棚卸資産の評価減	△2	△1
非流動資産の減損損失	△6	△1
リストラクチャリング費用	△3	△29
子会社および事業の売却による利益	10	-
その他	△0	△0
<b>個別開示項目 純額</b>	<b>9</b>	<b>△25</b>

# 為替レート・為替感応度

## 期中平均レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期			2025年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	見通し
英ポンド	163	163	164	163	172	177	179	182	197	195	195	195
ユーロ	138	139	140	141	150	153	154	157	168	165	164	164
米ドル	129	134	137	135	138	140	143	144	156	152	152	152
ブラジル・レアル	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7	28.6	29.0	29.4	29.9	28.3	27.5	27.5
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用											

## 期末レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	165	161	160	165	183	182	181	191	204	191	196
ユーロ	142	141	140	145	158	157	157	163	173	159	162
米ドル	136	145	132	133	145	148	143	152	162	143	157
ブラジル・レアル	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8	29.5	29.2	30.4	29.3	26.2	25.3
アルゼンチン・ペソ	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57	0.42	0.18	0.18	0.18	0.15	0.15

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円安になった場合の影響額

	2024年 3月期
資本	38.0億円の増加
当期利益	1.0億円の改善

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2024年3月期 4-12月期	2025年3月期 4-12月期	2025年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>329</b>	<b>373</b>	<b>490</b>
<b>資本的支出</b>	<b>385</b>	<b>389</b>	<b>630</b>
通常投資	248	199	330
戦略投資	137	190	300
<b>研究開発費</b>	<b>74</b>	<b>79</b>	<b>114</b>
建築用ガラス事業	24	29	
自動車用ガラス事業	23	24	
高機能ガラス事業	6	7	
その他	21	19	

# NSG

GROUP